



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-88

(2024.10.28)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (30) RORA

ーRORAの上昇には、リスク・リターンのバランス感覚が求められるー

ポイント

- 2023年度の全国信用金庫のRORAは、前期比0.06ポイント上昇の0.39%と改善した。2023年度は当期純利益の増加に伴い上昇となった。
- RORA・ROE・ROAの動きを比較すると、ROEとRORAの動きは、各期の当期純利益の増減により変動していることもあるため、同様の傾向がみられる。
- 信用金庫について、2期間比較（2019年度と2023年度）でRORAを確認したところ、上昇188金庫、低下66金庫と、上昇金庫が多い状況である。

1. RORA(全国)の状況

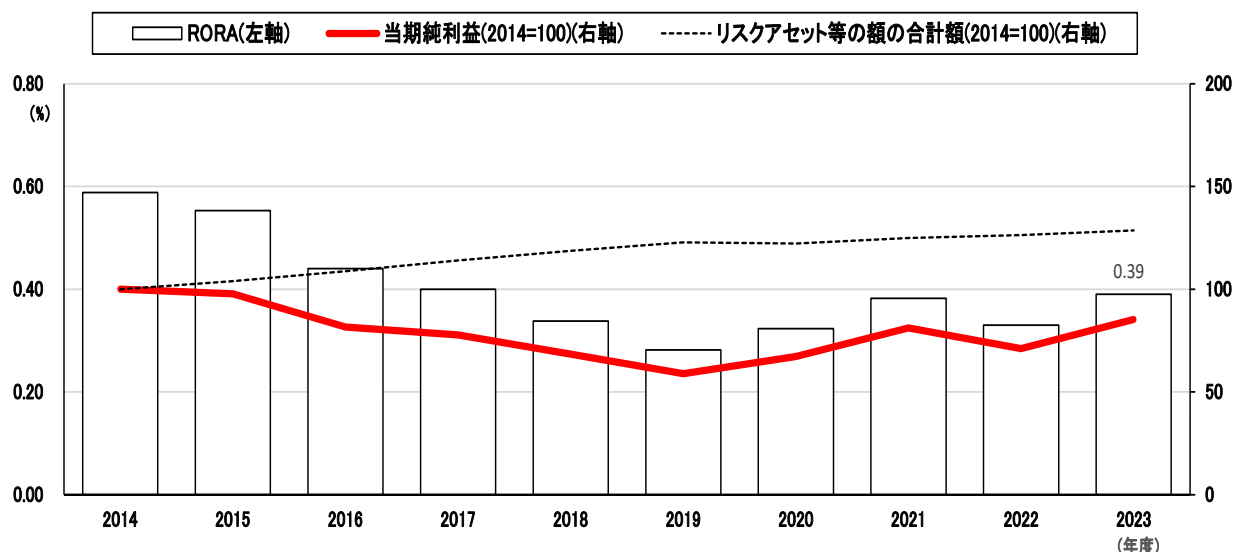
本稿では、近年、国内銀行において着目度が高まりつつある経営指標であるRORA（リスクアセット利益率(当期純利益／リスクアセット等の額の合計額)）について確認する。

2023年度の全国信用金庫のRORAは、前期比0.06ポイント上昇の0.39%と改善した。

過去10年間における推移をみると、RORAは2020年度以降、2021年度まで上昇していたが、2022年度は低下した。2023年度は当期純利益の増加に伴い上昇となった。

RORAの分子・分母である当期純利益およびリスクアセット等の額の合計額について2014年度を100として指数化すると、当期純利益の変動がRORAの動きに大きく寄与している(図表1)。

(図表1) RORA(全国)の状況



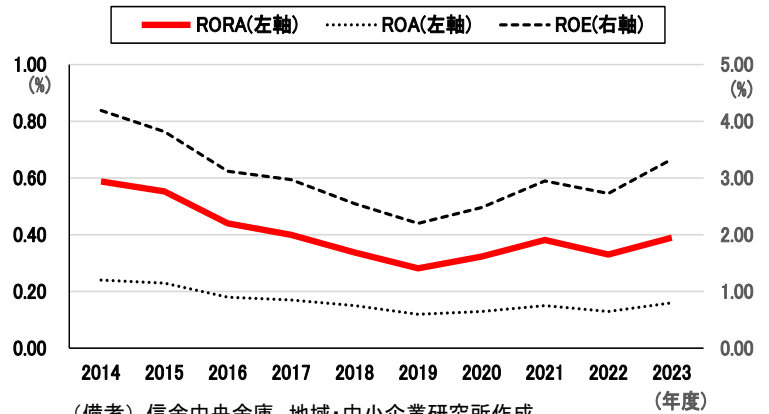
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. RORA・ROE・ROAの状況

過去5年間における信用金庫のRORA、ROE（当期純利益／純資産）、ROA（総資産当期純利益率）の推移を示す（図表2）。

ROEとRORAの動きは、各期の当期純利益の増減により変動していることもあるため、同様の傾向がみられる。

（図表2）RORA・ROE・ROAの状況



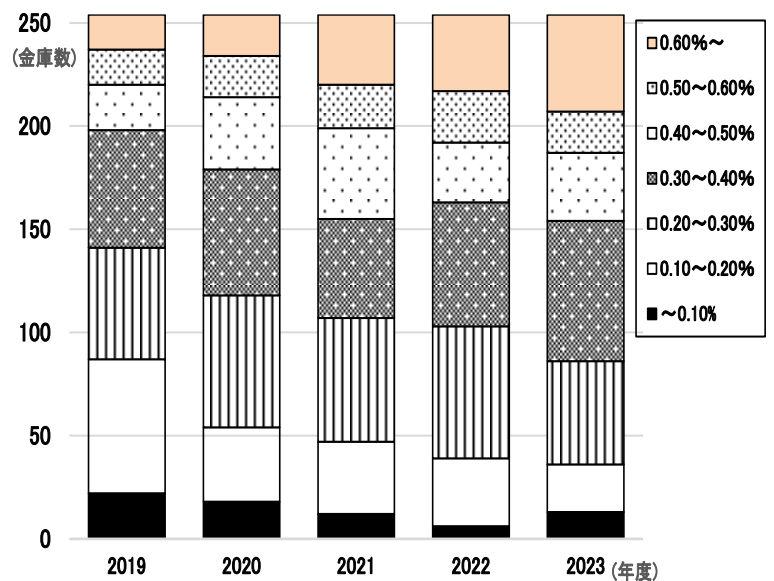
3. 信用金庫別RORAの状況

信用金庫別に、過去5年間におけるRORAの推移を示す（図表3）。

RORAは総じて上昇傾向であり、2期間比較（2019年度と2023年度）でRORAの動きを確認したところ、上昇188金庫、低下66金庫と、上昇金庫が多い状況となっている。

推移状況では、2019年度は0.10%～0.20%以下が最も多かったが、2020年度から2022年度は0.20%～0.30%以下が最も多くなり、2023年度は0.30%～0.40%が最多となっている。また、0.10%以下の信用金庫は減少傾向にあったが、2023年度は赤字金庫が増加したことにより増加となった。一方で、0.60%超の信用金庫が増加傾向にあるなど、信用金庫間のRORAの差が拡大している状況がみられる。

（図表3）信用金庫別RORAの状況



東京証券取引所による「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請を契機に、国内銀行ではRORAを経営管理の指標に取り込むなどRORA改善に向けた取組みがみられる。一方、信用金庫においては、RORAを経営管理の指標に取り込む例はあまり聞かれることはないが、今後、適正なリスクテイクのもとでリターンの最大化を目指す取組みは広まるものと思料される。

以 上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。